事務事業評価シート　令和　2　年度事後評価・決算

令和　4　年　2　月　10　日時点

所管課	健康づくり課	担当班	母子・成人保健班

事務事業名	コード	18900	感染症予防対策事業	予算科目	会計	款	項	目
					一般	4	1	2
施策体系	基本施策	5	保健・医療の充実	根拠法令	予防接種法			
	施策の展開	12	病気予防対策の充実	戦略事業	59	感染症予防対策事業		
	施策の展開			戦略事業				

事業種別
- ☑ 主な事業
- ☑ 国土強靭化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏構想
- ☐ 主要事業

(1)事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容　※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☑ 単年度繰返 ☑ 平成 13 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成　年度～ 令和　年度まで	≪子ども≫予防接種法に基づく予防接種（A類）を、乳幼児及び児童生徒に対し実施している。実施形態は、医療機関で受ける個別予防接種と旭市保健センターの2通りがある。個別接種は、ヒブ感染症・小児肺炎球菌・4種混合・不活化ポリオ・麻しん風しん混合MR・水痘（みずぼうそう）・日本脳炎・ヒトパピローマウィルス感染症（子宮頸がん予防）・B型肝炎・2種混合（例年は市内小学校での集団接種だが、新型コロナ感染症予防で密を避けるため個別接種に変更）の10種類に加え、令和2年10月からロタウイルス感染症予防ワクチンが追加されている。集団接種はBCGのみ。個別接種は、一般社団法人旭匝瑳医師会・千葉県内の相互乗り入れ協力医療機関のほか、疾病等での要注意者は独立行政法人国保旭中央病院・千葉県こども病院にて接種が可能。接種費用は予防接種法に定められた年齢内であれば、個別・集団接種共に無料となっている。 ≪高齢者≫【単年度繰返】・高齢者肺炎球菌（任意助成事業24年～27年度で終了）定期接種として26年10月から3,000円の助成。高齢者インフルエンザ1,000円の助成 【単年度】新型コロナ感染症とインフルエンザの同時流行防止のため、生後6か月～小学校2年生・妊婦・内部障害者等にインフルエンザ接種費用の助成、高齢者のインフルエンザ助成に上乗せ助成を行う。 【期間限定複数年度】新型インフルエンザ等感染症の発生に備え、計画やマニュアルの整備を行う。実際の発生時は初動体制に遅れのない適切な対応を行えるようにする。

③事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④事務事業に関する課題・環境の変化	⑤事務事業に対する住民からの意見等
≪子ども≫感染症の患者・死者が多数発生し昭和23年予防接種法が制定された。その後一部改正を重ねつつ現在に至る。 ≪高齢者≫（高肺）任意予防接種を平成24年度から旭市独自事業として開始するが、26年度から定期接種開始に伴い27年度末にて終了。（インフル）H13年予防接種法の改正により、対象疾病にインフルエンザが追加される。	≪子ども≫予防接種法において ・H25.4月～新規導入①ヒブ感染症②小児肺炎球菌③ヒトパピローマウィルス感染症 ・H26.10月～新規導入水痘(みずぼうそう) ・H28.10月～新規導入B型肝炎 ・R2年10月～ロタウイルス感染症ワクチン、H23～24年度にかけワクチン別に個別接種へ移行（2種混合、BCG除く） ・新型コロナR3年ウイルス感染症予防で密を避けるため、2種混合も個別接種に変更。 ≪高齢者≫H26.10月～高齢者肺炎球菌が法定化される。対象者は65歳～5歳刻み節目年度末年齢と、障害者手帳1級（身体）有する者。	≪子ども≫・市内の医療機関の予約が取りにくい。通知を受取り予約電話をすると、医療機関によっては1～2か月先まで予約が取れない。 ・協力医療機関が少ない。 ・予防接種の種類が多くなり、接種時期や接種間隔が分からなくなってしまう。

(2)コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細（2年度の決算）	単位：千円	
1.賃金、報酬、旅費	624	会計年度任用職員給与等
2.需用費等	17,028	消耗品費、印刷製本費、備品購入費
3.役務費	2,930	通信運搬費、集団予防接種ワクチン
4.委託料	110,317	個別予防接種委託料
5.扶助費	34,096	ワクチン接種費用助成金

② 特定財源の内訳（2年度の決算）	単位：千円	
1.国庫支出金	3,701	風しん抗体検査事業費補助金
2.都道府県支出金	16	風しんワクチン接種事業費補助金
3.地方債		
4.その他		

前年度増減理由	季節性インフルエンザ助成事業の開始及び高齢者インフルエンザ助成金額の引き上げにより扶助費が増加。それら予診票等の印刷に伴い需用費（印刷製本費）の増加。 新型コロナウイルスワクチン予防接種準備として需用費（消耗品費）の増加。

事業費		単位	29年度（決算）	30年度（決算）	1年度（決算）	2年度（決算）	3年度（予算）
費目内訳	1. 賃金、報酬、旅費	千円	1,708	1,704	1,781	624	1,656
	2. 需用費等	千円	1,196	1,664	1,746	17,028	3,253
	3. 役務費	千円	1,703	1,682	2,326	2,930	3,384
	4. 委託料	千円	103,871	94,859	94,067	110,317	121,433
	5. 扶助費	千円	15,298	15,001	19,047	34,096	32,935
事業費計（A）		千円	123,776	114,910	118,967	164,995	162,661
財源	1. 国庫支出金	千円		1,080	2,556	3,701	5,402
	2. 都道府県支出金	千円		6	14	16	30
	3. 地方債	千円					
	4. その他	千円					
	5. 一般財源	千円	123,776	113,824	116,397	161,278	157,229

従事職員数	常時	2 人	最大	12 人	×	12 日	＝	延べ	144 人

(3)事務事業の手段・目的と対応する指標

手段

① 主な活動

2年度実績（2年度に行った主な活動）

子どもの定期予防接種対象者に計画通り接種勧奨した。

③ 活動指標名		単位	29年度（実績）	30年度（実績）	1年度（実績）	2年度（実績）	3年度（計画）
ア	子どもの予防接種の種類（定期予防接種）	種類	11	11	11	12	12
イ	高齢者の予防接種の種類	種類	2	2	2	2	2

目的

	② 対象・意図（対象がどのような状態になるのか）
対象	MR2期対象の5歳以上7歳未満（就学前1年間）の子ども
意図	風しんが国の特定感染症予防指針「風しん排除計画」となっていることから、重症化の予防や感染の拡大を防止する。
対象	65歳と70歳以上100歳までの5歳刻み節目年齢で過去に接種歴のない方
意図	H31年度から再度経過措置にて実施、接種歴のない方に接種の機会を設け重症化予防につなげる。

④ 成果指標名		単位	29年度（実績）	30年度（実績）	1年度（実績）	2年度（実績）	3年度（計画）
ア	個別接種の接種率（MR2期）	%	92.4	93.4	92.2	96.5	96.0
イ	接種率（高齢者肺炎球菌：定期）	%	41.1	36.0	28.0	22.2	25.0

(4)事務事業優先度評価の結果

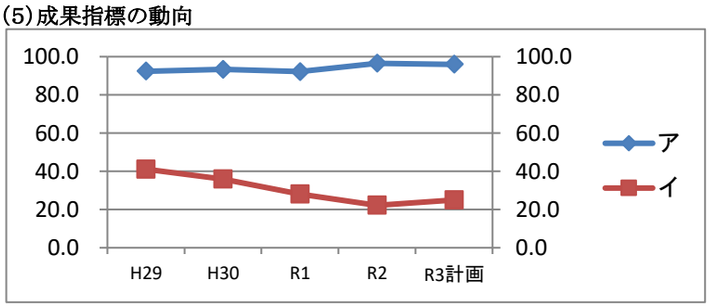
①成果優先度評価結果

施策貢献度	成果向上余地：かなりある	ある程度ある	ほとんどない
大きい		②	
普通			
小さい			

②コスト削減優先度評価結果

成果優先度評価結果	コスト比率：下位1/3	中位1/3	上位1/3
①			
②③			(9)
④⑤⑥			
⑦⑧⑨			

(5)成果指標の動向



(6)事務事業に関する評価

評価内容

① 進捗状況
【コメント】（停滞・未実施・実施困難の場合、その理由）
☐ 完了　☐ 順調　☑ 概ね順調　☐ 停滞　☐ 実施困難

② 成果の状況
【コメント】（低下の場合、その理由）
成果指標ア　成果指標のタイプ　数値増＝成果向上　☑ 向上　☐ 横ばい　☐ 低下
成果指標イ　数値増＝成果向上　☐ 向上　☐ 横ばい　☑ 低下

高齢者肺炎球菌予防接種について：例年2月に未接種者への勧奨通知をしていたが、新型コロナウイルスワクチン予防接種の通知発送時期と重なる計画であったため、最終勧奨の個人通知はしなかった。広報及びホームページ掲載の周知のみでは不十分であったと考える。

成果動向 比較	28年度 29年度	29年度 30年度	30年度 1年度	1年度 2年度	2年度 3計画
ア	△2.3	1.0	△1.2	4.3	△0.5
イ	2.9	△5.1	△8.0	△5.8	2.8

③ 今年度取組事項（3年度に取り組む主な事項について記載）

時期	内容	今後の方向性	
	昨年どおり実施	☐ 拡大　☑ 現状維持　☐ 見直し ☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☐ その他（　　）	昨年どおり実施